

糖尿病治療薬とがん予防

がん社会 を診る

中川 恵一

て、遺伝子やたんぱく質へのダメージが減るといっわけです。江戸時代の儒学者で医師の貝原益軒も「養生訓」の中で「腹八分目」の大切さを説いています。私も空腹を感じないときにはあまり食べないようにしています。

カロリー制限や運動に似た効果をもたらす薬が「メトホルミン」です。肝臓での糖の合成を抑える他、筋肉や脂肪組織での糖の取り込みを促し、小腸からの糖の吸収も減

らします。

この薬は日本を含む世界百カ国以上で使われている糖尿病治療の第一選択薬です。臨床現場で長期間使われてきており、安全性は確立されています。60年以上も前から使われているため、値段も一錠10円程度と安い薬です。効果が高く、安全かつ安いという三拍子そろった素晴らしい医薬品です。

用している人は、がんの発生が低いという報告が複数あります。メトホルミンを服用している患者は、膵臓（すいぞう）がんのリスクが62%も低下したとの報告が米テキサス大から出されています。肺がん、大腸がん、乳がんなど、多くのがん、抗がん効果があったとする臨床研究の結果が発信されています。

この薬の投与を受けていた糖尿病の患者さんは長生きということが報告されました。動物実験を行ったところ、マウスなどでも延命効果が確認されました。糖尿病の患者さんに長く投与されていたので、ヒトでの効果の方が動物実験より先に確認された珍しい例です。予期せぬプラスの面があったというわけです。カロリー制限はがんも減らしますが、メトホルミンを服用している人は、がんの発生が低いという報告が複数あります。メトホルミンを服用している患者は、膵臓（すいぞう）がんのリスクが62%も低下したとの報告が米テキサス大から出されています。肺がん、大腸がん、乳がんなど、多くのがん、抗がん効果があったとする臨床研究の結果が発信されています。

ただ、あまりに安い薬のため、薬品メーカーは治験に乗り気ではないようです。がんについての適応拡大には時間がかかるかもしれません。

私は昼食を食べません。診察や研究で忙しいことも理由の一つですが、ムダなカロリーを摂りたくないのも理由の一つです。

ビタミンや栄養が不足しない範囲でカロリーを制限すると寿命が長くなることは、酵母のような単細胞生物からマウスまで広く認められています。

カロリー制限で寿命が延びる大きな理由が代謝活動の低下です。代謝に伴ってどっし

とも発生する活性酸素が減っ



イラスト 中村 久美